

平成29年度入学生用カリキュラムマップ

【食生活学科】

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号				
					凡例：○ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 1. 知識・理解 2. 技能・表現 3. 思考・判断 4. 慮度・志向性 5. 統合的能力 1-1:1-2 2-1:2-2:2-3:2-4 3-1:3-2 4-1:4-2 5-1:5-2:5-3:5-4				
17JDFA1001	初期演習	1	「初期演習」の目的は、初年次学生が、学院の教育理念と歴史について学び、本学学生としての誇りと自覚を持ち、大学生にふさわしい主体性・論理性・実行力を培い、学科の教育目標を達成するように導くことである。	1. 「立学の精神」、それに基づく「教育目標」、「教育推進宣言」、学院の歴史について理解する。 2. 主題的に学び、実践する姿勢を身につけ、積極的に意見を発表・伝達するために、本を読み、自ら考え、文章に表現するなどの基礎的な能力を養う。 3. 学生相互や担任教員との豊かで円滑な人間関係の基礎を築く。 4. 女性として社会で活躍するための、キャリア形成の基礎を身につける。	○	○	○	○	○
17JDFA1002	基礎生物化学	1	食と健康の関係を理解するためには、食品中の栄養成分とその機能やヒトの体のしくみについて理解が必要となる。そこで本科目ではこれらのこと理解するために必要な化学の基礎と生物のしくみについて学ぶ。	化学では、食品の主要成分である水分と有機成分を理解するための考え方と基礎知識の習得をめざす。生物では、生物の基本構造、生体機能などを学びながら、生命とはいって何であるのかを理解する。	○	○	○		
17JDFA1003	英語会話 I	1	聴く、読む、書く技能を使いながら英語による発話能力を高めることを目的とする。	英語の基本的な文法事項などを復習し、コミュニケーション活動を通して基本的な会話ができるようになることを目標とする。					○
17JDFA1004	英語会話 II	1	聴く、読む、書く技能を使いながら英語による発話能力を高めることを目的とする。	「英語会話 I」で身に付けた基本的会話表現・スキルを応用し、さまざまな状況で英語による意思伝達ができるようになることを目標とする。					○
17JDFA1005	情報リテラシー	1	大学教育に適応し、安全で適切な情報活用ができるための基礎的な情報リテラシーを身につける。コンピュータやネットワークの知識、情報モラルの知識と実践力を育成するとともにオフィスソフトの活用をもとにしたレポート作成の基礎的な技能を確実に習得する。	・本学のシステムやオンラインサービスを知り、使いこなすことができる。 ・基礎的なコンピュータやネットワークに関する知識、情報モラルに関する知識をもち、場面に応じて安全にコンピュータやネットワークを活用することができる。 ・レポートを作成するために必要なソフトの活用技能を習得し、課題に応じた簡単なレポート作成ができる。	○	○	○	○	
17JDFA1006	公衆衛生学	1	生活が集団化した現代社会では病気予防や健康の維持・増進は個人の努力だけでは不十分で、集団（国、都道府県、市町村、企業、学校など）としての健康の維持・増進の努力が必要である。本講義では環境や生活習慣が人間集団の健康の維持・増進を図るために如何に重要かを理解することを目的としている。	健康について総合的な知識を身につけ、自分自身と集団の健康に留意出来るようになること。さらに栄養士として人々の健康の維持・増進に寄与する意義を理解すること。	○	○	○	○	
17JDFA1007	社会福祉概論	1	現代では社会福祉の領域は非常に広範囲にわたっており、その内容も多種多様で、私たちの生活のさまざまな面にかかわっている。このような社会福祉の根底を貫く原理を理解するとともに、社会福祉についての基礎的な知識を習得することが目標である。	現代社会福祉の理念が、経済の発展を背景に人権思想の深まりの中で創り出された、人類の叡智の結晶であることを理解する。さらに、日常生活の中で自分たちが関わる社会福祉制度についての知識を得る。	○	○	○	○	
17JDFA1008	解剖生理学 I	1	栄養士として人の健康管理に携わるためには、「ヒト」の構造や機能についての十分な知識が要求される。生命の基本単位の細胞レベルからその細胞を維持するために必要な器官系の成り立ちと機能を理解することを目的とする。	正常な人体の構造や機能について十分に理解する。	○				

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号				
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 1. 知識・理解 2. 技能・表現 3. 思考・判断 4. 慶應・志向性 5. 統合的能力 1-1:1-2 2-1:2-2:2-3:2-4 3-1:3-2:4-1:4-2 5-1:5-2:5-3:5-4				
17JDFA2009	解剖生理学 II	2	病気のしくみ（成因）や病態生理（体内で起こっている現象）を理解することを目的とする。	病態生理を理解し、各疾患の概要、病因、病態を理解する。	◎				
17JDFA2010	解剖生理学実習	2	解剖生理学では、短期間に多くの内容を学習した。そのうち特に栄養に関わりの深い項目についてその知識をより深く理解し、体得することを目的とする。	身体を構成する組織・器官の構造を実際に観察するとともに、実習を通じて自らの身体の生理機能を体感することで、身体の解剖学的特徴と生理機能を関連づけて説明できるようになることを到達目標とする。	○		○	○	
17JDFA2011	運動生理学	2	健康増進のための三原則である栄養、運動、休養の十分な理解に基づく積極的な栄養士能力の向上を目的に、運動と身体機能の関わりを学ぶ。	運動によって、からだの機能はどう変化するだろうか。この問題に、骨、筋肉、呼吸・循環器系、神経系、エネルギー供給などの生理学的立場から考える力をつける。また、近年問題とされる生活習慣病と関係深い肥満等の解消にも、運動の効果が有効であるため、栄養と運動の両面から、この解消を図れる力をつけることを目標とする。	○	○	○	○	
17JDFA1012	生化学	1	生化学は生命現象を化学的に理解する学問であり、生命科学の基礎となる科目である。生体分子の基本構造と諸性質について学び、生化学の知識が具体的かつ体系的に理解できることを目標とする。	食事から摂取した糖質、脂質、タンパク質の生体における化学変化や機能を理解し、生体の基本単位である細胞の機能やそこで行われる代謝についての基礎知識を総合的に理解することを目標とする。	○	○	○	○	○
17JDFA1013	生化学実験	1	生化学では、細胞内における個々の栄養素の代謝過程を学んだ。生化学実験では生体内化学反応を試験管内で再現することにより、実際の反応現象として確認する。また、栄養素の化学的性質や生体成分の構造と機能を実験を通じて学び、代謝についてより深く理解する。	生体構成成分である栄養素の化学的性質や酵素の働きについて定性実験や定量実験を通して学び、実験機器や器具の取り扱い、実験手法を知るとともに理解することを目標とする。	○	○	○	○	○
17JDFA1014	食品学（加工含む）	1	人は食品から健康的維持に必要な様々な栄養素を摂取している。つまり食品は健康維持に必要な多種多様な成分の集合体である。この科目では食品成分について科学的に理解し、食品成分の基本的な知識を習得することを目的とする。 本科目は、中学校教科家庭科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	食品中に含まれる栄養素の種類や特長を科学的に理解し、栄養士として必要な食品科学的な知識を他人に説明できるようになる。食品中の諸成分が生命機能を維持するために必要な部品であることを理解し、日常生活における食品に対する意識を高める。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中学校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○	○	○	○	○
17JDFA1015	食品素材学	1	食品素材が主としてもつ栄養素と微量ではあるが特殊な働きをする成分を理解する。個々の食品について、食品成分の栄養学的特徴、嗜好性、安全性、用途など種々の特徴を十分に理解することを目標とする。また、食品の一般的な栄養成分の化学変化、栄養評価なども理解する。	同じような食品でも、栄養成分のはんのちょっとした違いで性質が大きく変わることを理解する。そしてその性質の違いが調理法や食べ方に影響することを認識する。また、今日ではあらゆる食品が一年中販売されている。しかし、地産地消が叫ばれている現在、特に日本の地で旬を迎える食品は何なのかを理解する。栄養士の業務に献立作成があるが、的確な食材を用いて、季節に合わせた献立を自信を持ってたてられるような食品素材の知識を深める。	○	○	○	○	○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号						
					凡例： ○ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ◎ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 1. 知識・理解 2. 技能・表現 3. 思考・判断 4. 感覚・応用性 5. 統合的能力 1-1:1-2:2-1:2-2:2-3:2-4:3-1:3-2:4-1:4-2:5-1:5-2:5-3:5-4						
17JDFA1016	食品学実験	1	実験は面白くて、非常に楽しいものであることを体得し、実験を通じて得た体験により、食品とは何かを知ることを大目標とする。すなわち食品学総論、各論などで学んだ食品の各種成分の栄養特性の知識を深めるとともに、実験結果のレポートを作成し、的確に表現できる力をつける。	私達がいつもおいしく食べている食品を材料に使用し、実験の基礎から応用までを教示者の指導の元で自分ひとりで出来るようにする。	○	○	◎	◎	○		
17JDFA1017	食品衛生学	1	食品衛生学では、「食の安心・安全」の重要性を認識し、安全性確保の方法および衛生管理の方法について理解することを目的として講義を進める。食の安全に関する諸問題に適切に対応することができる良識と知識を習得することが到達目標である。 本科目は、中学校教科家庭科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	食の安全を科学的根拠に基づいて評価できる知識と技術を身につけることを目標とする。 教職課程履修学生は、学修内容を当該の中学校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	◎	○	○	○	○		
17JDFA2018	食品衛生学実験	2	食品衛生学の実験では、食品添加物の化学分析や食品中の微生物の観察を通じて、食品の安全性確保のための知識と技術を習得することを目標とする。	食の安全を科学的根拠に基づいて評価できる知識と技術を身につけることを目標とする。	○	○	○	○	○		
17JDFA2019	食品評価演習	2	食品についての知識だけでなく、食品の評価を行うために必要な知識を様々な評価を実際にを行うことで身につける。	食品の評価法には、人間の五感（視覚・聴覚・味覚・嗅覚・触覚）によって測定する官能評価や、食品の色の変化などを測定する化学的評価法、人の食感に大きく関わる物理的評価法などがある。本演習では、実際に各評価・測定を行い学ぶことで、各食品の特徴や評価法についての理解を深める事を目的としている。	○	○	○	○	○		
17JDFA1020	基礎栄養学	1	ヒトは外から必要な物質（栄養素）を取り入れ利用することにより生命活動を維持している。栄養素の摂取が具体的に表現されるのが食生活である。食生活に栄養の知識を活かし、健康の保持・増進、疾病的予防・治療が図れるよう栄養の役割について総合的に理解する。本科目は、中学校教科家庭科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	栄養学では、摂食行動、消化と吸収のメカニズム、各栄養素の構造と機能、エネルギー代謝の基礎を学び栄養士として必要な栄養学の基礎知識を身につけることを目標とする。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中学校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○	○	○	○	○		
17JDFA2021	栄養学実習	2	栄養、すなわち「生物がその生命活動を持続するために外界より必要な物質を取り入れ利用する現象」を理解し、栄養に関する基本的知識を自己のものにすることを目標とする。	生体成分の定性および定量実験やエネルギー消費測定について学び、摂取栄養素の体内動態や物質代謝、エネルギー代謝について実験手法を知るとともに理解する。摂食に関する実習では、乳児・幼児の摂食機能の獲得・発達を理解し、食援助ができるようになる。また、加齢による咀嚼嚥下機能の変化を理解し、嚥下食を調整することができるようになる。これら実験・実習を通して、栄養士として必要な栄養学の基本的知識をより深く理解することを目標とする。	○	○	○	○	○		

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号							
					凡例： <input type="radio"/> ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 <input type="radio"/> ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 1. 知識・理解 2. 技能・表現 3. 思考・判断 4. 感度・感性 5. 統合的能力 1-1:1-2:2-1:2-2:2-3:2-4 3-1:3-2:4-1:4-2:5-1:5-2:5-3:5-4							
17JDFA2022	応用栄養学Ⅰ	2	成長・発達・加齢に伴う人体の生理的変化と特徴について学び、身体状況や栄養状態に応じた栄養ケア・マネジメント実施のための理論を理解することを目的とする。また、健康人の栄養管理指標である食事摂取基準の基本的な考え方と活用方法を理解することで、適切な栄養ケア実施のための基礎力を養うことを目的とする。	身体状況や栄養状態に応じた栄養ケア・マネジメント実施のための理論について説明できる。食事摂取基準策定の考え方、各指標の意義と活用について説明できる。また、妊娠期、授乳期、新生児・乳児期、幼児期の身体的特性、疾患・病態、栄養ケアのあり方について説明できる。	◎ ○ ○				○	○		
17JDFA2023	応用栄養学Ⅱ	2	学童期から思春期にかけての成長・発達、成人期から高齢期にかけての加齢に伴うそれぞれの生理的変化と特徴について学び、ライフステージ特有の身体状況や栄養状態に応じた栄養ケア・マネジメント実施のための理論を理解することを目的とする。さらに、運動・スポーツ、ストレス、ヒトの恒常性に影響する特殊環境と栄養の関連性について理解することで、ライフステージおよびライフスタイルを考慮した総合的な栄養ケア実施のための基礎力を養うこととする。	学童期、思春期、成人期、更年期および高齢期の身体的特性、疾患・病態、栄養ケアのあり方について説明できる。運動・スポーツに伴う身体活動量の増加とそれに応じた栄養摂取、ストレス、特殊環境下における身体変化と栄養ケアのあり方について説明できる。	◎ ○				○	○		
17JDFA2024	応用栄養学実習	2	妊娠、成長、加齢など人体の構造や機能の変化に伴う栄養状態の評価・判定（アセスメント）の基本的な方法を習得し、ライフステージやライフスタイルに適した食事のあり方について学ぶ。また、健康増進、疾病予防の観点から、食事摂取基準に応じた献立作成の方法を習得し、実際に調理することで健康に対するリスク管理のあり方について学ぶ。	各ライフステージ特有の身体状況や栄養状態に応じた栄養ケア・マネジメントを展開する力、健康増進・疾病予防のための栄養ケアを考え、実践する力を習得する。	◎ ○	○ ○ ○ ○						
17JDFA1025	臨床栄養学概論	1	傷病者の病態・病期の特質や栄養状態に基づいた適切な栄養管理を実施するために、各種疾患の病気の原因や症状、病態、予後を理解したうえで、栄養学的視点に立った治療法や予防法について学習し、傷病者への栄養支援に必要な栄養評価や栄養補給法についての知識・能力を習得する。	1. 傷病者に対する臨床栄養管理の意義と目的について理解する。 2. 傷病者の病期・病態に基づいた食事計画の立案、調理など基本的な栄養管理を理解する。 3. 傷病者の病態や栄養状態に応じた食事療法を理解する。	◎ ○ ○ ○ ○ ○							
17JDFA2026	臨床栄養学実習	2	臨床栄養学概論で学んだ知識を活かし、各種疾患に応じた栄養管理法について、栄養評価・判定方法、各種治療食の献立作成演習、臨床調理実習等を通して傷病者における栄養管理法の実際を習得する。	1. 病態別に栄養管理・食事療法が計画できる。 2. 病態別の食事療法の具体化として特別治療食の食料構成表・献立表の作成ができる。 3. 病態別に応じた特別治療食が調理できる。	◎ ○ ○ ○ ○ ○							
17JDFA1027	栄養教育論Ⅰ	1	健康・栄養状態・食行動・食環境等に関する情報の収集・分析、それらを総合的に評価・判定する能力を養う。必要に応じて、対象者に応じた栄養教育のプログラムの作成・実施・評価を総合的にマネジメント出来るよう健康やQOLの向上につながる健康・栄養教育の理論と方法も修得する。	栄養教育のマネジメントシステムを理解し、的確な栄養アセスメント、それに基づく栄養教育の計画、実施、評価の総合的なマネジメントを行うことができる能力を身につけることを目標とする。	◎ ○ ○ ○ ○ ○							

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号						
					凡例： <input type="radio"/> ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 <input checked="" type="radio"/> ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 1. 知識・理解 2. 技能・表現 3. 思考・判断 4. 感覚・感性 5. 統合的能力 1-1 1-2 2-1 2-2 2-3 2-4 3-1 3-2 4-1 4-2 5-1 5-2 5-3 5-4						
17JDFA2028	栄養教育論 II	2	健康・栄養状態・食行動・食環境等に関する情報の収集・分析を行い、それらを総合的に評価・判定する能力を養う。この科目は、教職課程の科目にも対応している。	対象に応じた栄養教育のプログラムの作成、評価を総合的にマネジメント出来るよう健康やQOLの向上につながる健康・栄養教育の理論と方法を修得する。	◎	○	○	○	○		
17JDFA2029	栄養教育論実習 I	2	健康情報分析論、栄養教育論を基に集団を対象とした健康・栄養状態、食行動、食環境などに関する情報の収集・分析をし、そのデータから評価・判定を行う。	栄養教育の方法、教育用資料の作成方法を習得する。	○	○	○	○	○		
17JDFA2030	栄養教育論実習 II	2	栄養教育論 I、II（講義）を基に、個人を対象とした健康・栄養状態、食行動、食環境などに関する情報の収集・分析をし、そのデータから評価・判定を行い、栄養教育の方法、教育用資料の作成方法を学ぶ。	栄養教育論 I、II（講義）で習得した知識を活かして、実際に栄養教育を実施するための技術を修得する。	○	○	○	○	○		
17JDFA2031	公衆栄養学	2	地域等の健康・栄養問題とそれらを取り巻く諸問題に関する情報を収集・分析し、それを総合的に評価・判定する能力を養う。また、保健、医療、福祉、介護システムの中で適切な栄養関連サービスを提供するプログラムの計画・実施・評価の総合的なマネジメント理論と方法を習得する。	1. わが国や諸外国の健康・栄養問題の動向とそれらに対応した主な栄養政策について理解できる。 2. 集団や地域における人々の健康・栄養状態や社会・生活環境の特徴に基づいた公衆栄養活動について理解ができる。	◎	○	○	○	○		
17JDFA1032	調理学 I	1	健康で豊かな食生活をおくるために、食物を「安全」「栄養」「嗜好」の視点よりとらえ、食事計画、調理環境、調理操作など、調理学の理論を学ぶ。さらに食の専門家（栄養士やフードスペシャリスト）として理論を応用し発展させていく力を養う。本科目は、中学校教科家庭科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	食の専門家として、実践に結びつけられるよう調理操作・調理環境・食事計画を含め、調理学の基礎的理論を理解することを目標とする。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中学校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	◎		○	○			
17JDFA1033	調理学実習 I	1	調理の基本原理を科学的に理解し、基本操作の習得や食品の調理特性を学ぶことを目的とする。本科目は、中学校教科家庭科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	調理の基本操作を学習することにより、調理の基本原理を深く理解するとともに食品の調理特性を理解し、盛り付け・配膳も含め基礎的な調理の理論や技術を習得することを目標とする。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中学校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○	○	○	○	○		
17JDFA1034	調理学実習 II	1	調理学実習 I で得た知識を基に、安全・栄養・嗜好性にかなった献立や行事食の実習を通して食の専門家としての実践力を身につける。本科目は、中学校教科家庭科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	調理学実習 I で学んだ基礎的な知識や技術をもとに、日本料理や西洋料理などの行事食実習などを行うことにより、専門的な調理操作や食材の扱い方を深く理解し、さらに実践できる力をつけることを目標とする。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中学校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。	○	○	○	○	○		

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号				
					凡例：○ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 1. 知識・理解 2. 技能・表現 3. 思考・判断 4. 感情・志向性 5. 統合的能力 1-1:1-2:2-1:2-2:2-3:2-4:3-1:3-2:4-1:4-2:5-1:5-2:5-3:5-4				
17JDFA1035	給食管理学	1	病院、学校、事業所、福祉施設等の特定給食施設における給食管理の目的と重要性、更に栄養士、管理栄養士の役割を理解するとともに、給食の運営や関連する業務について、具体的方法を修得する。	給食の運営を総合的に判断し、栄養面、生産面、安全面、経済面全般のマネジメントを行う能力を養い、マーケティングの原理について理解するとともに、組織管理などマネジメントの基本的な考え方や方法を習得する。	○	○	○	○	○
17JDFA2036	フードサービス論	2	病院、学校、福祉施設、事業所等の特定給食施設において、給食業務を行うために必要な具体的な実務を修得するとともに、特定給食施設での健全な経営管理の手法等を学ぶ。	特定多数人の人々の健康状態・栄養状態の改善・維持・向上、QOLの向上を目指とした栄養食事管理を効率的、かつ効果的に継続して実施していくためのシステムおよびマネジメントについての経営管理の理論に基づき理解する。	○	○	○	○	○
17JDFA1037	給食管理実習	1	給食管理実習は、学内実習室において、栄養管理、事務管理、作業管理、衛生管理、施設管理等の特定給食の普遍的な知識をもとに、給食管理の基本的あり方の理解とその実践力を養うことを目標に行う。	特定多数人の人々の健康状態・栄養状態の改善・維持・向上、QOLの向上を目指とした栄養食事管理を効率的、かつ効果的に継続して実施していくためのシステムおよびマネジメントについての経営管理の理論に基づき、実践する能力を養う。	○	○	○	○	○
17JDFA2038	臨地実習	2	集団給食施設（病院、学校、事業所、自衛隊など）において、管理栄養士・栄養士指導の基で校外実習（1週間）を行い、栄養指導、給食管理の実際等栄養士として身につけるべき知識・技能を体得させることを目的とする。	給食業務を行うために必要な、食事の計画や調理を含めた給食サービス提供に関する技術を習得する。 (1) 集団給食における調理技術を習得する。 (2) 給食計画立案能力を習得する。 (3) 給食業務に関する処理能力を習得する。					○ ○ ○ ○ ○
17JDFA2039	フードサービス実習	2	フードサービス実習は、学内実習室において、栄養管理、事務管理、作業管理、衛生管理、施設管理等の普遍的な知識をもとに、顧客満足を目指した給食管理の基本的あり方の理解とその実践力を養うことを目標に行う。	人々の健康状態・栄養状態の改善・維持・向上、QOLの向上を目指した栄養食事管理を効率的、かつ効果的に継続して実施していくためのシステムおよびマネジメントについての経営管理の理論に基づき、実践する能力を養う。	○	○	○	○	○ ○ ○
17JDFA2040	調理学 II	2	健康で豊かな食生活をおくるために、食物を「安全」「栄養」「嗜好」の視点よりとらえ、食事計画、調理環境、調理操作など、調理学の理論を学ぶ。さらに食の専門家（栄養士やフードスペシャリスト）として理論を応用し発展させていく力を養う。	食の専門家として、実践に結びつけられるよう調理操作・調理環境・食事計画を含め、調理学の基礎的理論を理解することを目標とする。	○			○ ○	○
17JDFA2041	調理学実習 III	2	調理学実習 I および II で得た知識を基に、安全・栄養・嗜好性にかなった献立や行事食の実習を通して食の専門家としての実践力を身につける。	調理学実習 I および II で学んだ基礎的な知識や技術をもとに、日本料理や西洋料理などの行事食実習などを行うことにより、専門的な調理操作や食材の扱い方を深く理解し、さらに実践できる力をつけることを目標とする。	○		○	○	○ ○
17JDFA2042	製菓・製パン理論	2	健康で豊かな食生活をおくるために、食物を「安全」「栄養」「嗜好」の視点よりとらえ、製菓・製パンの理論を学ぶ。さらに食の専門家（栄養士やフードスペシャリスト）として理論を応用し発展させていく力を養う。	食の専門家として、実践に結びつけられるよう調理操作、製菓・製パンに関する基礎的理論を理解することを目標とする。	○			○ ○	○
17JDFA2043	製菓・製パン実習	2	調理学実習 I および II で得た知識を基に、安全・栄養・嗜好性にかなった製菓・製パンの実習を通して食の専門家としての実践力を身につける。	調理学実習 I および II で学んだ基礎的な知識や技術をもとに、製菓・製パン実習を行うことにより、専門的な調理操作や食材の扱い方を深く理解し、さらに実践できる力をつけることを目標とする。	○		○	○	○ ○

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号							
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 1. 知識・理解 2. 技能・表現 3. 思考・判断 4. 感覚・応用性 5. 統合的能力 1-1:1-2:2-1:2-2:2-3:2-4 3-1:3-2:4-1:4-2:5-1:5-2:5-3:5-4							
17JDFA1044	生活学概論	1	人間にとて基本的な生活領域である家庭生活に焦点をあて、地域や社会、また歴史的変化などとの関連も含めて、生活の現状を実証的かつ総合的に把握し、生活課題を明らかにする。本科目は、中学校教科家庭科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	学生が家庭のあり方を問い合わせることを通して、自分と家族の充実した生活を創造する能力を養う。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中学校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。					○			
17JDFA2045	保育学	2	子どもを育てることは社会全体の責任であり、その基礎となる正しい医学的・生物学的・社会学的知識を身に付ける。子どもの健全育成に必要な環境や人的援助についての理解を深め、教養ある女性保育者としての常識的な判断力を養う。本科目は、中学校教科家庭科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	保育とは何かを理解し、子どもの心身の発達を知り、子どもへの理解を深め、保育者としての力量を養う。教職課程履修学生は、当該の中学校教科内容との関連性およびその活用方法（教材化）等につき主体的に探索する力を修得する。		○						
17JDFA1046	住居学	1	住むということについての身近なことから、これから住まいの空間のあり方を学ぶ。そして住まうとは地域社会の形成にも密接に関係しており、住まいづくりから街づくりまで広い視野から住まいのあり方を見ていきたい。本科目は、中学校教科家庭科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	住まいの多様性と歴史的变化を理解する。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中学校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。				○				
17JDFA1047	被服学	1	この科目は、我々の生活の中での被服の役割や関わりについて理解を深めることで、より快適な衣生活の実現を目的とする。 また、本科目は、中学校教科家庭科を教授するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解することを一目的とする。	被服材料の基礎的知識や被服に要求される性能、取り扱い等について自然科学の視点から学ぶことで、被服と生活の関係性を理解し、衣生活を快適にする能力を培う。教職課程履修学生は、学修内容を当該の中学校教科内容および教材に関連づけて主体的に探求する。				○				
17JDFA1048	衣服構成	1	衣服製作（ブラウス、スカート、パンツ）の一連の過程を学び、実習教材を開発できる基礎的知識や技術の習得と実践的態度の育成を目的とする。本科目は、中学校教科家庭科を教授するに足る専門的知識および技能を等を修得することを一目的とする。	衣服パターンの製図、衣服の組み立て工程、服種と表布・裏布・芯地・糸・針の関連性などの理解と基礎縫製技術、縫製実習にかかる機器類（工業用ミシンやロックミシンなど）や道具の使用技術が習得できることを到達目標とする。教職課程履修学生は、当該の中学校教科内容との関連性およびその活用方法（教材化）等につき主体的に探索する力を修得する。		○						

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号									
					凡例： <input type="checkbox"/> ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 <input checked="" type="checkbox"/> ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目 1. 知識・理解 2. 技能・表現 3. 思考・判断 4. 感度・情向性 5. 統合的能力 1-1:1-2:2-1:2-2:2-3:2-4:3-1:3-2:4-1:4-2:5-1:5-2:5-3:5-4									
17JDFA2049	学校栄養教育・指導論	2	本科目は「栄養に係わる教育に関する科目」である。栄養に関わる教育を実践するに足る基礎的知識および技能等を修得し、教職実践力と関連づけて理解する。児童・生徒を取り巻く社会的背景、課題や問題点などを理解し、栄養教諭としての使命、役割、食に関する指導の専門性を認識する。また教育者として必要な知識・技能および実践する能力を修得する。	教職課程履修学生は、児童・生徒を取り巻く社会的背景、課題や問題点などを理解し、栄養教諭としての使命、役割、食に関する指導の専門性を認識する。 ①栄養教諭の制度と役割、職務内容。学校給食の教育的意義と役割。学校組織と栄養教諭の位置づけ。食生活に関する歴史的、文化的事項。幼児、児童および生徒の栄養に係わる課題がわかる。 ②給食時間、教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間、個別の栄養指導および家庭地域との連携等における食に関する指導がわかる。 ③給食時間、教科等における食に関する指導の実践ができる。	○	○	○	○	○	○				
17JDFA2050	食糧経済学	2	私たちの生活にとって切っても切り離せない「食糧（食料も含む）」の生産・流通・消費に関する国内および外国の現状や課題を認識し得る基本的な知見を得ることを目的とする。	「食糧」を生み出す「農業」や「農業」をとりまく「環境」や「社会」との関連について認識を深め、自らのライフスタイルにおいても対応策を考察し、実践できる知識をもつことが到達目標である。	○	○			○	○				
17JDFA2051	フードスペシャリスト論	2	フードスペシャリストは専門職として流通(卸売店、卸売市場)や販売(デパート、スーパーなど)、飲食関係(ホテル、レストランなど)、消費者センターなどの分野で活躍が期待される食べ物のプロである。各分野における具体的な業務についての基礎知識を修得する。	フードスペシャリスト資格認定試験に合格できるレベルにフードスペシャリスト論の知識のみならず、食品学関係、栄養学関係等の学力を深める。	○	○	○	○	○	○	○	○		
17JDFA1052	フードコーディネート論	1	日本人の伝統的な食文化「和食」がユネスコの無形文化遺産に登録されたり、日本の「おもてなしの心」が注目される一方、個食、朝食抜き、過度なダイエット、和食離れ、食情報の氾濫や最近では、「食品表示の偽装」のように食の安全や信頼を揺るがす問題が起きている。そのような問題に対し、食に関する幅広い知識を持ち、総合的に判断や提案できる専門家である「フードスペシャリスト」の資格を目指す。資格認定試験において「フードコーディネート論」は、出題科目になっており、知識、技能の修得だけではなく、実践力を養うことも目的である。「フードコーディネート」とは、食に関するさまざまな場において要求する相手が満足できる状態を演出することであり、食のシーンは、家庭の食卓、スーパー、デパ地下、食のイベント、レストランなど広範囲にわたる。フードコーディネートが食生活に果たしている役割、価値を知り、テーブルコーディネート実習や演習を通して実践力を身につける。	フードコーディネートの基礎的な知識、技能を学び、おいしさの本質、おもてなしの心(ホスピタリティ)、伝統的な食文化、マナー、食育などもあわせて修得していく。それにより、食の科学的な知識だけではなく、人の心に内在する食に対する心情などを理解し、より質の高いフードコーディネートを提案できる感性を磨き、これから自分が目指すフードスペシャリストとはどういうものか考えられることを目標とする。	○	○	○	○						